

議案第 3 号

バスロケーションシステムの導入について

バスロケーションシステムの導入について、次に定めるところによる。

平成 2 8 年 9 月 3 0 日

飛島村地域公共交通活性化再生法定協議会
会 長 久 野 時 男

■設備投資（バスロケ・ＩＣカードシステム）について

・バスロケーションシステム

平成 27 年度の村議会で「導入すべき」との意見があり、検討を開始。

これまで、先行事例等を調査。

< 想定される導入候補のバスロケーションシステムの比較 >

- 三重交通 Bus Vision は、システムの性質から、運転手・営業所での稼働時の対応は必要がないメリットがあるものの、イニシャル・ランニングコスト面でのメリットがない。
 - エイ・ケイ・システム BusGo! は、他のシステムに比べ価格優位性が高く、他自治体での導入事例が多い。
- （特に配線工事等の必要がなく、予備車両への導入もスマートフォンを搭載するだけで対応可能）



< 対応の方向性（案） >

- 過去にも導入要請があり検討した経緯があること、当時と比較し非常に導入価格が安価になったこと等をふまえ、導入に向けて対応を進める。
- （ダイヤ変更とあわせて導入を進める）



○ 平成 28 年度第 1 回 バス検討委員会（H28.8.17）より

- ・ 導入について異議なし。検討委員会にて合意した。

○バスロケーションシステムの導入コスト比較表

金額は税抜

イニシャルコスト	三重交通 Bus Vision			ドコモ docoですcar forBUS				エイ・ケイ・システム BusGo!			
		単価	数量		単価	数量	合計		単価	数量	合計
	車載器	-	9 台分	初期費用	300,000円	1 式	300,000円	路線データ作成費用	195,000円	2路線+11系統	195,000円
	通信機	-	9 回線	電源ケーブル	8,000円	9 個	72,000円	車載スマートフォン	30,000円	9 台	270,000円
	初期設定等	-	1 式					予備車両用周辺機器	6,000円	1 台	-
	4,972,000円			372,000円				465,000円			
ランニングコスト		単価	数量		単価	数量	合計		単価	数量	合計
	月額基本料	-	1 式	docoですcar標準プラン5年契約	4,500円	9 台	40,500円	使用料	2,980円	9 台	26,820円
	管理ID利用料	-	1 式	docoですcar forBUS	3,600円	9 台	32,400円	予備スマートフォン貸出費用	2,980円	1 台	2,980円
	通信サービス利用料等	-	1 式	ユニバーサルサービス料	2円	9 台	18円				
	50,400円/月			72,918円/月				29,800円/月			
	604,800円/年			875,016円/年				357,600円/年			
導入事例	三重交通			群馬県高崎市				埼玉県深谷市			
								茨城県取手市			
								茨城県牛久市			
								千葉県香取郡多古町			
								群馬県伊勢崎市（実証実験）			
								埼玉県上尾市			

表示画面と機能



表示選択ボタン
選択画面に戻る

路線図・時刻表・運賃タブ

路線図 時刻表 運賃表

本町2丁目 停留所

路線・停留所	大人	小人
座席均一	200	100

時刻表

運賃表

時刻表・運賃表に切り替え

時刻表 (グリーン・優待席あり)
中央公園駅 平日

46
16 46
16 56
26
01 36
16 51
21 51

2023年3月1日(木)

画面に戻る

bus-go.com/sp/sp-busgo

表示選択 BusGO! お知らせ

路線図 時刻表 運賃

地図 航空写真

+

-

地図データ © 2014 Google, ZENRIN (利用規約)

バスは「北本駅東口」付近を走行中です。約15分ほどで到着する予定です。

マップの拡大・縮小

バスの「金太郎駅」付近を走行中です。約15分ほどで到着する予定です。

バスへの設置方法

- ・シガーソケットの取り付けをお願い致します
- ・窓の近くにスマートフォンホルダーを取り付けます
- ・スマートフォンを固定し、充電ケーブルを繋げば完了です



他車両へ移設する時は…

搭載しているスマートフォンを載せ替えるだけで完了です。



・ＩＣカードシステム

バスロケーションシステムの導入検討にあたり、むしろ、ＩＣカードシステムの導入を優先すべきとの指摘があり、導入費用等について調査検討を行った。

<新たにＩＣカードシステムを導入する場合に必要な経費>

	レシップ	消費税別：千円 小田原機器
1、運賃箱	1,070	1,125
2、乗車リーダー	100	100
3、配線等必要経費	19	18
(小計)	1,189	1,243
4、後方処理必要経費分担(26.1%)	310	324
(合計)	1,499	1,567

- ・三重交通株提供
液晶運賃表示機、音声合成案内が導入済みであること。

現状の投入台数（９台） × 約 150 万円 = 1,350 万円+消費税等

<その他諸条件>

- 現在の導入車両は、平成 21 年度に調達。7 年経過。今年 8 年目。
会計上 5 年で減価償却を終えており、定期点検を通して、長期利用を進める。
(耐用年数は概ね 12 ~ 15 年。15 年以上利用するケースもあり。)
- 三重交通が対応するその他自治体・コミュニティバスでは、導入予定なし。
- 地域公共交通確保維持改善事業費補助金の活用
(利用環境改善促進等事業・補助率 1/3)
・ＩＣカードシステムの導入は、訪日外国人観光客(インバウンド促進)対応時(多言語化)のみ対象となり、通常のシステムは補助対象外。補助金利用は見込めない。
- (車両減価償却費等国庫補助金・補助率 1/2)
・ＩＣカードシステムを設置した車両については、運賃箱は減価償却費(補助金)対象、システムのリーダーは対象外となる。車両購入時であれば、上記の運賃箱分は補助対象になる。
現行の飛島バスの運賃箱(小田原機器)は旧型でＩＣカードシステムを後付できないタイプで、導入に当たっては、新しい運賃箱に置き換えする必要がある。
地域公共交通網形成計画に位置付けていなくても個別補助金申請を行えば対応可能。



<対応の方向性(案)>

- 他自治体コミュニティバスでの導入はすすんでいない。
経費削減から補助金の活用を行うには、車両購入時であれば運賃箱に適用される補助金の活用が見込まれる。あと数年で、車両更新する必要があり、その際にＩＣカードシステム対応することが望ましいと考える。



- 平成 28 年度第 1 回 バス検討委員会(H28.8.17)より

・車両導入時に再度検討することとして確認した。